



# ヨシイちゃんのひとりごと

## チャップリンは生きています。



近頃はやたらと殺人事件が多い。親が、子

が、友が、妻や夫が、そればかりか全く関係のない人間が偶然に会った人間を簡単に殺す。幼子をマンションの8階から縫いぐるみを捨てるように投捨てる。新聞、テレビでそんなニュースがひっきりなしに報じられている。

店の前を保育園児が保育さんたちに引率されてよく通る。キヤツキヤと騒ぎながら無邪気な顔で元気よく、こんな子どもたちが少し大きくなって殺人者になるとは思えない。

けれど今の殺人加害者にもそんな年頃があったはず。生れつき殺人者などいないはず。どこでどうなったのか。

沖縄で、米軍海兵隊の軍事訓練の様子がテレビで放映されていた。カラーテレビで一見すると戦争ゴッコに見えた。画面の兵隊の顔は緊張感も悲壮感もない。

けれども戦争という名の殺人の訓練には違いない。

テレビゲームなどで戦争や殺人の疑似体験ができる。それをかさねていると感覚が麻痺して、一度、実体験をしてみたくなくなるのかも知れない。

自分のためには勿論、家族のため、国のため、信仰のため、民族のため、自衛のためでも人を殺してよいとは思えない。水俣病が問題になって50年、クボタ尼崎工場のアスベストでの被害者がでた。直接ではないが結果は殺人や傷害と同じこと。とに角、何かを何所かで誤ったよつだ。

### 命を大切にすれば 幸せ運び人になれる

両の顔をそつと合わせりや、会わなかつた頃のおっかさんの姿が浮かんでくからあ。長谷川伸作・「瞼の母」より

4年前、横浜でワールドカップ決勝戦(6月30日)が有りました。その一週間前、私は横浜で異父弟夫婦と会っています。

私という異父兄の存在を全く知らずに65年も育ってきた彼らは正に晴天霹靂です。母も母のつれ合い《彼の父上》も京都に住む母の8人の弟妹(叔父叔母)たちも半世紀以上秘密を守り通していたのです。私の生立

映画少年だった遠い昔、黄金狂時代などチャップリンの作品で大笑いをしたものだ。その喜劇王と親しまれた彼が、違う目線でシリアスな映画「殺人狂時代」をつくった。

次々と起る殺人やイラクのニューズを見て、その中の有名なセリフ、「一人の殺害は犯罪者を生み、百万の殺害は英雄を生む。数が湯舟の入浴写真は、モザイクが入れられず残念ながら掲載できません。」

06・4・14にて、義郎72才、初榮89才、息子・左、母・右



「殺人を」神聖化する」をふと思いついた。金の為に殺人を続けた男が真相が発覚し、死刑台に向かう時のセリフだ。

戦後間もない1947年に製作された映画のこの言葉だが、今も「生きているセリフ」だ。チャーリー・チャップリンは今も死ねないだろう・・・！戦争も殺人もまだ有るのだから

「私たちが今まで母さんを占領してきたが、一度兄さんと母と私たちで温泉旅行をしましょう」と言ってくれ、先月異兄妹と甥夫婦とその子とでの箱根温泉一泊旅行が実現しました。

箱根に着くと、妹達の勧めで露天家族風呂に母とゆつくり入りました。妹から母が「義郎は小さい時に手放した私を恨んでいないかなあ」と気にしていたと聞いていましたから、湯舟で「恨んでなんかいやへんさかい気にせんでモエエ」と言いながら生まれ初めて母の肩をもみました。振り返った母のにつこり穏やかな笑顔、八十九才の背中は小さいものでした。夕食も美味しそうに食べ、翌日の箱根見物も杖なしでシッカリとした早い足取りで歩きます。私より長生きしてくれそうと思いつつ、新幹線小田原駅で

「年に一回は会いに来まっさー」と告げホームへ振り向かず駆け上がり別れた。否、振り向けなかった。

旅行をビデオ撮りしていた甥からテープが届きました。私と別れた後の画面で、母の涙を流す顔がみえました。七十二才になつて健在な母がいる。今共に仕事をしている弟(異母弟)と妹二名を生んだ亡き育ての義母、妻の母、そして母代わりをしてくれた祖母ら亡き三名の母がいた私は幸せ者だと思つたのです。

旅行中、甥が「伯父さんに感謝している。もし伯父さんが生まれて居なかつたらお婆さん(母のこと)はお爺さん(母の夫)と結婚してない。だから母(異母妹)は生まれていないし孫の私も存在しない。娘(甥の)もいないのだから。伯父さんにも、伯父さんのお父さんにも僕たち夫婦は感謝している」と言うのです。近頃の若者はと決めつけがちの私を反省させてくれた言葉です。それだけで無く私は青春時代、自分の生立ちを知り悩んだ一時期がありました。それが完全に吹っ切れたのは、私の誕生が多くの人に幸せを与えたとの甥の言葉でした。不幸を背負っていたと思つていた自分が「幸せ運び人」だったと教えて呉れたその言葉に感謝をしよう。そして私も幸せだ！

寄稿・投稿

この欄は皆様用のスペースです。ご投稿寄稿をお待ちしています。匿名も可

「食と自然農を考える」に参加して  
・F生

エコロジーからスローライフ、そして、ロハスへ

自然農とは？昔、雑誌で見た写真には雑草と共に生育している野菜たちの信じがたい姿がありました。いったいどんな農業なのか、この目で確かめるべく4月23日に開催された「食と自然農を考える」と銘打ったセミナーに参加しました。

セミナーは3部構成で、まず川口由一氏の三重県にある赤目自然農塾の様子をビデオで視聴しました。そこで繰り広げられる映像は今までの私たちの常識を覆す、信じられないものでした。耕さない、農薬、肥料を使わない、害虫は存在しない。亡骸の層と呼ばれる朽ちた草たちを礎に育つ農作物、そこには自然の摂理に則った正しい生命の営みや、循環、そして宇宙とも言える世界が存

在していました。ただ、驚くばかり。

そして、第2部では京都で自然農を実践しておられる岡田洋明さんの生のお聞きしました。自然農がいかに素晴らし農法であるかを知るとともに、今私たちの食がどれほど危険な状態にあるか、危機感を募らせる内容でした。今年大挙として日本を襲った黄砂は、中国での一般農法のための土地の無理な開墾の影響があることを、どれほど多くの人が知りえているのでしょうか。



自然農を考える会場写真

4・23. サカタ二楽々ホールにて

第3部は参加者を交えての交流会で、老若男女幅広く集まった方々が活発に意見を交換する様子は、自然農法を含めた私たちの健康や環境を維持するための持続可能なライフスタイル、ロハスの広がりを感じさせ、多いに希望に満ちたものでした。今ある簡便な生活と引き換えに失ったものがどれほど大きく、取り戻すことが難しいかをこういつたセミナーを通じて一人でも多くの人に伝わればと思います。未来の子ども達のために。

タマソウのくびくび

ぼっけんばん 前巻の続き



あや香

なんと黒マンツの男がお母さんを打つ所でした。タマはハエになってその話を聞きに行きました。黒「オイ！あのねこはどこだ」母「ハイあのねこはしらないのです」黒「うそをつくな」母「こんな手紙がおいてありまして・・・」黒「あ〜ん。(チエ三日後かよ)」母「命だけは」黒「フンこれでゆるすか」黒マンツはフエをふきました。黒「ビュー」

タマは話をきくとソーに伝えました。「えーっ。せ・戦せん争ソー」(タマサバイバル)タマはこくりとつなずきました。黒マンツ男「さあいけ」黒マンツたちは弓を引きインドの人々にむけて弓矢をはなちました。「キヤー」ドスン「たすけてー」ドスン次々に人々がたおれてゆきます。ソーとタマは準備をし、黒マンツの前に立ちました。黒女「ア・あれはソーってやつね」(ヤバー)「いざしょうぶ」ソーはけんをふりまわしました。小さいころちゃんばらごっこをよくやったので、黒マンツをたおせると思ったのですがさすがに本物はこわいので、きとうにけんをふりまわしてしまします。するとふりまわしているだけなのに次々とけんがあたります。さすがに黒マンツもびっくりです。みごと黒マンツすべてをたおす事にせいこうしました。そしてソーとタマはのこった子どもたちお母さんお父さんをたすけました。そしてその永久のしるしとして、二人の像を作りました。

タマはしゃべるねことしてお金をかせぎをし、ソーの家族は大金持ちになりました。そしてあくる日タマとソーはいきをひきとりました。インド人の人々はとても悲しみ像の前でいつもおがんでいました。亡くなってもソーとタマはわたしたちの町を守りつづけています。そしてソーとタマは、インド・日本・地球をいまもまもりつづけています。そのご黒マンツの男たちはいなくなり、黒マンツの女は、自分のすむ村にかえっていききました。この地球があるのもタマとソーのおかげかもしれません。そのあとは？

タマとソーがいきをひきとつたあと、タマにた、ねこがタマとそのおくさんの間に生まれました。人々はそのネコを大事に大事にそだてました。完

(編集者・あとがき)  
4回に分けて連載しました。10歳の子どもの作品にお付き合いくださり有難うございました。作者に代わり厚くお礼申し上げます。

尚、エピソードを4ページ最下段に「質問コーナー」として掲載してあります。

もし、全文まとめたものがご入用の方はお知らせ下さい。

# 酒屋で生きて 生かされて

## 第五話・敗戦直後から 自由販売まで

父は十九年兵隊時代病気で兵役免除された後、陸軍飛行部隊の物資調達会社の仕事をしていた。戦後の物資不足は戦時中より酷くなり売れるものが無い状況が暫く続きました。(逆に物さえあれば何でも売れた)

米軍の進駐、政治犯の釈放、戦争犯罪人逮捕、今まで神様だった天皇が人間宣言され、民主主義に戸惑いながら徐々に世の中は落着きを取り戻してきました。しかし闇物資が出回り急激なインフレが始まりました。

私は国民学校の最後の卒業生、旧制中学最後の入学生で当時月謝十五円でしたが、六年後高校卒業時には月謝は七百五十円になっていました。六年間で五十倍の物価上昇です。昭和二十年と平成十六年の理髪料上昇率で

戦時中の配給切符・立命館大学  
国際平和ミュージアム資料借用



現価格比較計算するとビール大瓶は二一〇六円、焼酎<sup>1.8</sup>は八四二四円になり、酒は超高価で貴重なものでした。

酒の配給制度は残っていて米不足で酒がつかれない時代、闇市では「アルコール」をうすめて「焼酎」と称して売っていました。中には有毒のメチールを使った物が有り、死者や目が見えなくなった人も多数でした。(当れば死ぬ)とこらからこの飲み物を人は「爆弾」よんでいました。

お酒は貴重で然も物凄く商品不足でした。もう随分昔で当業者は亡くなっていきますので書きませんが飛行隊物資調達の仕事をしていた父が終戦時入手方法は知りませんが「ドラム缶三本の九〇度のエチルアルコールを持ち帰りました。既に昭和十一年頃「理研酒」＝合成清酒(米を使わず清酒に近い味の酒)が製造されていて、その製法を手に入れ、大阪道修町の薬店で琥珀酸、グルタミンソーダ、酒石酸、単舎利別シロップを求め調べて割り水したアルコールにいてカラメルで色付けして清酒に近いものをつくりました。それに滋賀県の蔵元から分けて貰った原酒を加え、再開した飲食店で売りました。又、酒統制会社時代の同僚だった酒屋さんにも

廻していたのです。この方法は後、5%ほど米で造った清酒を加えても良いことになりました。三増酒・として今も清酒として売られているもの限りなく近い味になりました。(来年



肖像の右に証紙が貼られた百円札

「金融緊急措置令」預金封鎖を乗り越えられたのです。悪性インフレと政治不安の回避を目的にした「預金封鎖」の方法は、全ての預金の支払い停止。封鎖からの預金支払いは

から清酒と名乗れない) このお酒と飲食店のお陰で昭和二年二月に実施された

所帯主三〇〇円家族一名100円が引出限度。給料支払いは五〇〇円迄新円、残りは封鎖預金払い。というものでしたが本来の効果はなく平均的な日本人は大変大きな被害影響を受けたのです。この機に大儲けをした人もあるのです。私共も少しお金廻りが良かったようでした。

この「金融緊急措置令」預金封鎖は現銀行法の範囲で実施出来るのか? 国の財政赤字対策で、何時か息をふきかえすことも有るかも判りませんよ。ご用心ご用心。そのころ酒の価格は配給(丸公)と自由価格の二本立てでした。次回、敗戦直後から重販売まで。(酒屋の裏話)

から清酒と名乗れない) このお酒と飲食店のお陰で昭和二年二月に実施された

### ギャラリー・カフェ集・サカタニ6月展示

## 木村武司 島村尚子 二人展



花や京都の風景  
を中心に展示  
期間・  
6/1~6/30  
時間  
AM10~PM6.  
月曜日・定休

### 木村武司 [キムラタケシ]

- 1932年・京都に生まれる。
- 1952年・二科展初入選。
- 1960年・第45回二科展で特選受賞以降入選10回。
- 1960年・上京。  
グラフィックデザイン、  
TVCM企画演出等に従事
- 1978年・第11回等巡展で  
等巡会賞受賞。委員推挙。
- 1985年・「ポンペイ鎮魂の詩」  
で文部大臣奨励賞受賞。
- 1993年・美術団体・等巡会  
第三代会長に就任。
- 2000年・関西でニューアート  
ZERO会の結成に参画。  
現在・千葉・京都・兵庫で油絵・  
水彩・教室主宰

### 島村尚子 [シマムラナオコ]

- 1941年大阪生まれ。1961年成安女子短期大学意匠科卒業
- 1996年等巡展に油彩画出品。受賞二回。
- 2000年ニューアートZERO会結成に参画。
- 現在・京都・神戸・宝塚で八ヶ岳絵指導にあたる。

レンタルルームやカラオケのお問合せ  
教室や貸切はお気軽にご相談下さい。担当・酒谷宗男。

毎週土曜日・予約制  
薬剤師横山政美さんの  
プランニング・  
ヒーリング

毎週水・金曜日  
18時~21時  
川端馨也ギター教室  
(個人レッスンの部)

カラオケルーム《本格的》  
7・8人収容可

タマとソーのくらしぶり  
エビローケ 質問コーナー  
Q1・タマが亡くなったあと、肉は食べたの?  
A・タマはソーといつしよにそのままお墓に入れてあげました。  
Q2・ソーが亡くなったとき、ソーは何才だったの?  
A・その時ソーは二十一歳とてもわかかったひとです。けれども旅(たたかったとき)のあと黒マントに、くすりをのまされていたので二十一歳と言わかさで亡くなったのです。  
Q3・お母さんはたすかったのですか?  
A・イイエ!行つたときにはいませんでした。けれどもほかのお母さんたちを助けたので像がつくられました。